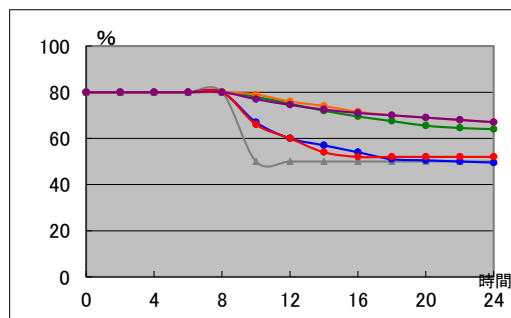


# 和ふすま には、 こんな素晴らしい機能があります。

- ①—本ふすま
- ②—チップふすま
- ③—ダンボールふすま
- ④—発泡系ふすま
- ⑤—組子のないコアふすま

## 和ふすまの調湿機能

ダンボール系・発泡系・ペーパーコア系の襖芯材の場合、湿度の吸収機能は一定の基準で飽和状態となり、外気に変化しても測定用箱内の湿度の変化は少ない。一方、チップボール紙和ふすまや本ふすまは、約8時間後には外気に追従する形で湿度変化が生じ、よって前述の試験体に比べ湿度の調整機能がより顕著であると考えられる。

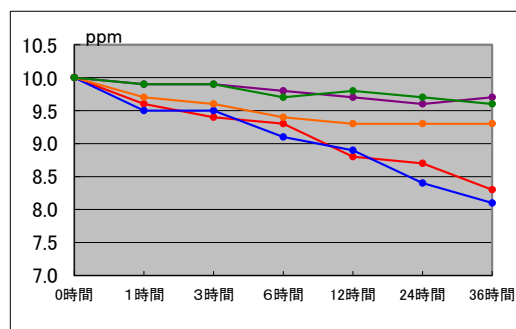


試験方法 湿度測定用の箱（1800×850×850）の中に計測器を入れ、恒温恒湿装置で気温20度、湿度80%の状態の中で、試験体と測定用箱を8時間放置、開放する。次に試験体で測定用箱の内部を外気と遮断したうえ、恒温恒湿装置で気温20度、湿度50%に設定し、時間経緯とともにその測定用箱内部の湿度変化を測定した。／和歌山工業技術センター調べ

## ホルムアルデヒド吸着試験

### 評価

1 OPPMという高濃度の中で①②は2日以上吸着が持続した。③④⑤では吸着はほとんど確認できなかった。

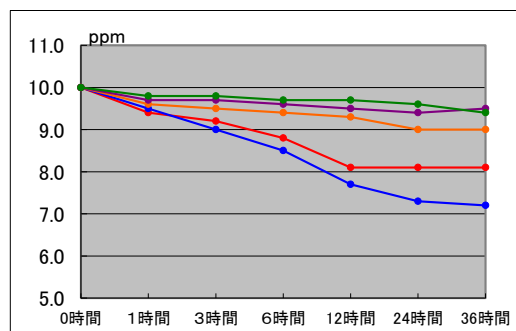


試験方法 600mlの密閉ポリ容器の中に①～⑥のサンプル試料を入れ、初期濃度10ppmのホルムアルデヒドを封入し、時間の経過ごとに容器内の濃度変化をガスクロマトグラフで測定した。室温20～23℃。  
／測定日：平成13年9月26日～9月28日／酒井理化学研究所

## アンモニアの吸着試験

### 評価

アンモニアは吸着されやすい物質のひとつであるが、③④⑤では吸着効果はあまりみられなかった。①②では顕著な吸着能力を示し、特に②ではその効果は優れている。

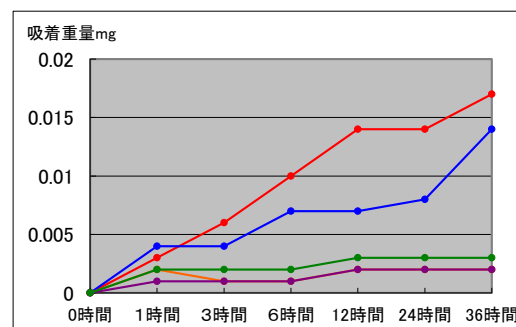


試験方法 600mlの密閉ポリ容器の中に①～⑥のサンプル試料を入れ、初期濃度10ppmのアンモニアを封入し、時間の経過ごとに容器内の濃度変化をガスクロマトグラフで測定した。室温19～22℃。  
／測定日：平成13年9月29日～10月1日／酒井理化学研究所

## タバコの煙の吸着試験

### 評価

③④⑤については、3時間で吸着が限界になり飽和状態を示した。①②では2日後でも吸着能力が持続し、高い吸着性を示している。



試験方法 600mlの密閉ポリ容器の中でタバコを20本燃やして煙を充満させた。この中に①～⑥のサンプル試料をいれ時間の経過ごとに試料の重量変化を微量天秤にて測定した。室温20～23℃。湿度65～75%。  
／測定日：平成13年10月3日～5日／酒井理化学研究所